第 20 巻 総　目　次

第 1 号

矢崎敬三：地震計に用いる Co-elinvar つる巻ばねについて …… 1

長宗留男・泉末雄：松代における地殻潮汐の観測（1）…… 7

鷺坂清信・山岸　登：近地地震における表面波の観測について（つゞき）……15

鷺坂清信・山岸　登：地震の最大動の観測について ……21

坂田勝茂：振動倍率係数 $\frac{\mathfrak{V}}{V}$ の表について（補遺）……27

市川政治：近地地震の P 波走時（和達・鷺坂・益田）用 $\frac{\partial T}{\partial \Delta}$, $\frac{\partial T}{\partial h}$ の表 ……33

第 2 号

諏訪　彰・田中康裕：1953年～54年の大島三原山の火山活動に関連する火口内の溶岩温度の変動……39

矢崎敬三・竹山一郎・田中康裕：複水平振子傾斜計の試作について ……49

勝又　護：日本付近の地震の垂直分布 ……59

長宗留男・泉　末雄：松代における地殻潮汐の観測（続）……65

宇佐美竜夫・小川辰郎：各成分間における初動時刻の差について ……73

第 3 号

小河原正己：東京における次の有感地震の確率 ……81

はせばてつや：わが国における地震波初動の走時偏差 ……93

市川政治：P 波初動と観測網 …… 101

樋口長太郎・小野崎誠一：ウィーヘルト水平動地震計（200kg）の自由振動の異常の原因について（残留制振度が意外に大きいこと）…… 109

野口憲男：中央気象台型簡易地磁気偏角計調査結果について（第1報）…… 117

荒川義則：台風による脈動について …… 123

第 4 号

藤本文彦：深発地震の記象による土地の振動特性の研究…… 129

宇津徳治：松代の近地地震記象中の顕著な相について（その1）…… 141

市川政治：P 波初動分布について …… 145

佐藤留太郎・大野栄寿・佐藤一大・諏訪　彰：1954年春の磐梯山の山くずれ …… 157

米子測候所：鳥取県西部地震踏査報告 …… 165

Vol. XX Contents

No. 1

K. Yazaki : On the Co-elinvar Spring for the Vertical Seismograph 1
T. Nagamune and S. Izumi : Observation of the Earth Tides at Matsushiro Seismological Observatory (1) 7
K. Sagisaka and N. Yamagishi : Observation of Surface Waves of the Near Earthqukes (the second paper) 15
K. Sagisaka and N. Yamagishi : Observation of Maximum Amplitudes of the Near Earhtquakes 21
K. Sakata : On the Table of Dynamical Magnification Coefficient $\frac{\mathfrak{B}}{V}$ (Supplement) 27
M. Ichikawa : Tables of $\frac{\partial T}{\partial \Delta}$, $\frac{\partial T}{\partial h}$ for Wadati-Sagisaka-Masuda's Travel Times of P 33

No. 2

A. Suwa and Y. Tanaka : The Changes in the Temperatures of the Lava in the Crater of Miharayama, Oshima, in Connection with the Eruptive Activities of the Volcano during 1953-54 39
K. Yazaki, I. Takeyama and Y. Tanaka : On a Horizontal Double Pendulum Tiltometer 49
M. Katsumata : Vertical Distribution of Earthquake Foci In and Near Japan 59
T. Nagamune and S. Izumi : Observation of the Earth Tides at Matsushiro Seismological Observatory (Continued) 65
T. Usami and T. Ogawa : An Example of Time Differnces of Initial Motion between Three Components 73

No. 3

M. Ogawara : Probability of the Coming Felt Earthquake to Tokyo 81
T. Haseba : On Anomalies of the Appearance Time of the Seismic Initial Motion in Japan 93
M. Ichikawa : Sur Premier Impetus et Reseau d'Observatoires Séismologiques 101
T. Higuti and S. Onozaki : On the Abnormal Free Vibration of Wiechert's 200kg Horizontal Seismograph 109
N. Noguchi : Study of Declination by Simplified Declinometer of C.M.O. Type (First report) 117
Y. Arakawa : On the Microseismes Caused by a Typhoon 121

No. 4

F. Fujimoto : On Vibrational Characteristics of the Ground Assumed from Seismogram Data 129
T. Utsu : Some Remarkable Phases on Seismograms of Near Earthquakes (Part 1) 141
M. Ichikawa : Sur Distribution des Compressions et Dilatations d'Onde *P* ... 145
T. Sato, E. Ono, K. Sato and A. Suwa : The Landslide at Bandai-san in Spring, 1954 157
Yonagò Weather Station : On the Earthquake of the West Part of Tottori Prefecture of June 23, 1955 165

験震時報　第1巻（1925）～第20巻（1956）総目次

第 1 巻（1925）

国富　信一　日本に於ける地震波動の伝播に就て……1— 6
石川　高見　近地地震に於ける初動の射出角……6— 11
岡田　武松　地震報告用語と略号……11— 17
藤原　咲平　ふたご地震に就て……18— 21
岡　順次　地震記象紙の複写に就て……21— 27
石川　高見　地震記象紙用「ワニス」に就て……28— 30
佐藤　秀雄　地震報告記入に関して……30— 34
佐藤　秀雄　本年1月30日の降灰……34— 40
小野澄之助　「イソスタチツク・ブロツクス」と地震につきて（其の1）……51— 60
石川　高見　支那雲南省大理地方の地震……60— 69
佐藤　秀雄　関東大震と其の世界各所の記録に就て……69— 80
石川　高見　東京湾及び其の附近の地震に就て……80— 94
岡田　武松　コロの捲き方に就て……94— 96
国富　信一　霧島火山脈と大屯火山脈に就て……97—100
曾我　義徳　タイム・シグナルに就て……100—106
和達　清夫　近地地震に就て……126—143
朝倉　重郎　持続電波受信……143—154
藤原　咲平　相模灘地震の機巧に就て……161—170
石川　高見　大正14年7月7日岐阜附近の地震……170—194
佐藤　秀雄　地鳴に就て……194—202
国富　信一　発震時の取り方に就て……202—209
小野澄之助　「イソスタチツク・ブロツクス」と地震につきて（其の2）……221—233
小平　吉男　錘に依つて廻転する地震計のドラムの回転の速さが錘の振動の為に変化する事に就いて……233—236
国富　信一　$\overline{P}$波及$\overline{S}$波に就て……237—249

第 2 巻（1926）

鷺坂　清信　地震波の分解に就て……1— 6
石川　高見　異常震域を表はせる地震記象に就て……7— 15
岡田　武松　マリス・エ・ブラン測微鏡に就て……15— 18
国富信一・佐藤秀雄　ヴキヘルト地震計据付及取扱方に就て（其ノ1）……18— 30
国富　信一　大正15年2月4日津軽海峡東方沖合に発せる地震の考察……49— 60
旭川測候所　十勝岳硫黄山爆発踏査報告……73— 86
石川　高見　本邦顕著地震表……87—179
和達　清夫　遠地の観測に依りて可能なる震源附近の被害推測……181—185
高谷　静馬　上下動及水平動の初期微動発現時の遅れに就いて……186—191

国富　信一　震源の求め方に就て…… 192—201
帯広測候所　9月5日零時半頃帯広測候所管内强震概報…… 201—207
鷲坂清信・佐藤秀雄　大正15年8月3日の東京湾地震に就て…… 217—227
国富　信一　震源の求め方に就て（承前）…… 228—232
国富信一・佐藤秀雄　ヴキヘルト地震計据付及取扱方に就て（其ノ2）…… 233—245

第 3 巻（1928～1929）

国富　信一　北丹後烈震概説…… 1— 5
国富信一・佐藤秀雄　北丹後地方の地質状態…… 7— 8
佐藤　秀雄　北丹後烈震の震度被害分布及地鳴観測…… 9— 42
国富　信一　北丹後烈震に現はれたる断層…… 43— 50
石川　高見　北丹後烈震発震の導因たるべき気圧に就きて…… 51— 64
和達　清夫　北丹後地震と深層地震…… 65— 75
国富　信一　北丹後烈震の験震学的考察…… 77—106
鷲坂　清信　北丹後烈震余震調査…… 107—124
藤原咲平・高山威雄　北丹後地震と割目の研究…… 125—132
国富信一・鷲坂清信　北丹後烈震激震区域の踏査報告…… 133—142
八鍬利助・高谷静馬・一木　茂・棚橋嘉市　北丹後大地震実地踏査概況第一報告…… 143—168
関　和男・小野英男・棚橋嘉市　北丹後大地震実地踏査概況第二報告…… 169—184
室伏万吉・山崎兵次郎　北丹後大地震実地踏査概況第三報告…… 185—190
藤原咲平・高山威雄・岩見憲逸　北丹後地震踏査報告…… 191—209
国富　信一　関東大地震の験震学的考察…… 211—242
平野　烈介　昭和3年3月23日午前10時21分の武蔵飯能附近の地震に就て…… 243—290
浜島仙治郎　昭和2年8月6日朝石巻の地震…… 291—300
鷲坂　清信　昭和2年8月6日阿武隈川河口沖の地震の走時曲線…… 301—307
熊本測候所　阿蘇火山に関する近況報告…… 307—312
鷲坂　清信　昭和4年6月3日深層地震の調査…… 313—338
隼田　公地　昭和4年5月22日日向灘地震調査…… 339—365
石川　高見　昭和3年6月3日天草島附近の地震…… 366—392
旭川測候所　昭和3年2月21日26日地震報告…… 393—398
大倉　各司　北太平洋航海中感ぜし地震…… 399
梶間　百樹　昭和3年6月8日浅間山の現状…… 400—402
長野測候所　昭和3年2月23日の浅間山噴火報告…… 403—408
長野測候所　昭和3年3月13日の浅間山の噴火降灰…… 408—411
前橋測候所・高山測候所・伊香保森林測候所　昭和3年2月23日浅間山噴火各地報告…… 412—420
前橋測候所　昭和3年6月20日浅間山噴煙報告…… 421—422
旭川測候所　十勝岳噴煙報告…… 422—424
長野測候所　昭和3年浅間山の噴火報告…… 425
前橋測候所　昭和2年12月28日以後の白根山噴煙報告…… 426—427
旭川測候所　旭岳噴煙調査報告…… 428—431
和歌山測候所　鳴動に就き報告…… 431—432
根室測候所　千島松輪島芙蓉山噴火の件…… 432

総　目　次

第 4 巻（1930）

鷺坂　清信　深い震源の深さを求むる一方法……1— 16
隼田　公地　昭和4年7月27日相模強震調査報告……17— 43
横浜測候所　昭和4年7月27日相模地震踏査報告……44— 57
横浜測候所　地震に関する件報告……57— 58
函館測候所　昭和4年1月21日檜山郡厚沢部村地震概況……58— 63
室蘭測候所　昭和4年1月20日の地震……63— 64
長野測候所　昭和4年3月16日2時3分頃の地震……65— 66
福岡測候所　昭和4年8月8日福岡県地震報告……67 —68
釧路測候所　昭和4年9月駒ヶ岳軽石漂着報告……69— 70
根室測候所　昭和4年9月駒ヶ岳溶岩漂着に関する件……70
根本　広記　駒ヶ岳爆発噴火調査報告……71—139
田中館秀三　駒ヶ岳噴火史料……141—144
梶間　百樹　昭和4年9月18日未明の浅間山噴火に就いて……145—160
石川　高見　昭和4年9月18日浅間山爆発報告……161—185
堤　健六・市川德一　昭和4年9月18日浅間山爆発報告……187—190
市川　德一　追分支所より見たる浅間山噴火の状況……191—192
長野測候所追分支所　浅間山麓被害調査……193—196
長野測候所　昭和4年9月18日浅間山爆発管内に関する報告……197—202
前橋測候所　昭和4年9月18日浅間山爆発報告……203—213
熊谷測候所　埼玉県に於ける浅間山爆発音響及降灰の分布……215—219
伊香保森林測候所　浅間山噴火報告……221
熊本測候所　昭和4年中阿蘇山活動報告……223—234
熊本測候所　阿蘇山噴煙報告……235—256
国富　信一　北伊豆地震概説……257—260
国富　信一　北伊豆半島の地勢及び地質……261—268
中央気象台予報掛　昭和5年11月25日26日の天候状態……269—272
淵本　一・鷺坂清信　北伊豆地震回数と気圧変化の速度……273—278
中央気象台地震掛　北伊豆地震の験震結果……279—292
石川　高見　地震計記象に現はれし変位相……293—295
石川　高見　地震計記象に現はれたる傾斜動……297—298
石川　高見　地震計記象に現はれたる長き週期の波動……299—300
国富　信一　北伊豆地震の断層概況……301—304
中央気象台地震掛　北伊豆地震の被害調査……305—311
国富　信一　北伊豆地震と伊東の頻発地震との関係……313—320
藤原　咲平　模型実験との比較……321—329
国富　信一　地震の光に就て……331—334
藤原　咲平　北伊豆地震踏査報告……335—350
国富信一・隼田公地　北伊豆地震踏査報告……351—355
本多弘吉・淵　秀隆　北伊豆地震地域踏査報告……357—363
鷺坂清信・木沢　綏　北伊豆地震踏査報告……365—371
石川高見・三浦秀正　北伊豆地震実地踏査報告……373—395

藤村郁雄・加藤倫助　北伊豆地震踏査報告…… 397—401
本多　弘吉　富山県地辷り地域踏査報告…… 403—406

第 5 巻（1931）

国富　信一　能登相模湾弱線の存在に就て…… 1— 17
石川　高見　本州中部の地震活動と北伊豆地震……19— 53
鷺坂　清信　地殻浅層内の震波速度（第1報）……55— 78
鷺坂　清信　地殻浅層内の震波速度（第2報）……79— 92
本多　弘吉　地震縦波の速度に就て……93—109
本多　弘吉　我国に於ける地震波伝播速度の異常に就て…… 111—115
隼田　公地　北伊豆烈震の地震計記象に現れし変位相…… 117—121
隼田　公地　北伊豆烈震の前震及余震の震央位置…… 123—130
鷺坂　清信　北伊豆烈震の前震余震と気圧との関係…… 131—153
隼田　公地　昭和5年3月22日伊東地方強震に就て…… 155—170
国富　信一　熱海街道，田代盆地及浮橋盆地の断層調査…… 171—175
国富信一・妹田甚一・三宅恒夫・測候技術官養成所第二学年生徒　北伊豆地震調査報告… 176—198
国富信一・淵本　一・山内英雄　北伊豆地震踏査報告…… 199—215
国富　信一　西埼玉強震概説…… 217—222
国富　信一　西埼玉強震に於ける初動の方向に関する考察…… 223—234
本多　弘吉　浅い地震の機構と記象型に就て…… 235—265
鷺坂清信・石川高見・岡四四亥　西埼玉強震の験測結果…… 267—276
熊谷測候所　西埼玉強震報告…… 277—317
本多弘吉・岡四四亥　西埼玉強震地域踏査報告…… 319—321
本田　弘吉　西埼玉強震地域踏査報告…… 322—324
加藤倫助・岡四四亥・川本弥七　西埼玉強震地域踏査報告…… 325—327
市川　德一　熊谷町に於ける震災状況…… 329—330
植野隆寿・高岸登久寿　秩父町附近被害状況……331
伊丹喜逸・石井　德治　大里郡深谷町，藤沢村，大寄村震災地踏査報告…… 332—337
市川德一・伊丹　喜逸　大里，秩父両郡下震災地踏査報告…… 338—341
植野隆寿・石井　德治　熊谷町より妻沼町に至る利根川沿岸の震域踏査報告…… 342—344
大池四郎・市川德一・内田正作　北足立郡吹上村震害地踏査報告…… 345—350
内田　正作　北足立郡吹上村震災地踏査報告…… 351—353
大池四郎・川本弥七　県北西部本庄町，児玉町附近震災地踏査報告…… 354—357
市川　德一　震災地踏査報告…… 358—361
吉本　九平　熊谷町より小川町に至る震災状況踏査報告…… 362—365
川本　弥七　県北西部利根川南岸震災地踏査報告…… 366—369
大池四郎・植野隆寿　比企郡大河村南城山の亀裂及び陥没地域踏査報告…… 370—373
川本　弥七　秩父郡太田村地内八人峠の地辷り地踏査報告…… 374—376
市川德一・内田正作　比企郡岩殿山震災地踏査報告…… 377—380
前橋測候所　西埼玉強震群馬県下踏査報告…… 381—390

総　目　次

第 6 巻（1932）

本多　弘吉　深い地震の機構と記象型に就て（概報）…… 1— 14
鷺坂　清信　地震横波の初動から見た震源の運動機構……15— 42
鷺坂　清信　北伊豆烈震の震源の運動に就て……43— 64
鷺坂　清信　地震波速度……65— 82
岡　四四亥　田沢湖地震に就て……83— 92
竹花峰夫・平山　操・矢木秀雄　道志川地震に就て……93—120
畠山　久尚　柿岡にて観測せる地表傾斜変化に就て…… 121—132
北田　道男　昭和6年2月17日北海道浦河の地震報告…… 133—154
国富信一・鷺坂清信　秋田県駒嶽爆発調査報告…… 155—180
渡辺　慧・藤原咲平・深瀬一郎　昭和6年8月浅間山爆発調査報告…… 181—218
福島測候所　盤梯火山現状報告（第1報）…… 219—227
福島測候所　盤梯火山現状報告（第2報）…… 228—236
高田測候所　新潟県焼山火山調査（第1報）…… 237—266
室蘭測候所　洞爺湖陥没調査報告…… 267—269
室蘭測候所　登別温泉間歇泉噴出報告……269

第 7 巻（1933）

国富　信一　震源の深さを求むる方法（第2報）…… 1— 15
国富信一・篠原　茂　地震回数の日変化に就て……17— 20
鷺坂　清信　北伊豆前震に依る震波速度……21— 35
石川　高見　異常震域（第2報）……37— 70
竹花　峰夫　昭和7年7月25日琵琶湖附近の深発地震に就て……71— 82
国富信一・竹花峰夫　昭和7年10月白根山爆発調査報告……83— 89
前橋測候所　白根火山踏査報告……91— 94
梶間百樹・高野和夫　昭和7年10月白根山噴火報告……95—102
北田　道男　新冠川河口強震調査報告…… 103—110
国富　信一　三陸沖強震及津浪に就て…… 111—153
本多　弘吉　三陸津浪に関する二三の考察…… 155—159
鷺坂　清信　牡鹿半島は沈降しつゝありや…… 160—162
石川　高見　三陸沖強震の習性…… 163—166
竹花　峰夫　三陸沖強震に依る地震縦波の速度に就て…… 167—170
本多弘吉・竹花峰夫　三陸沖強震の余震…… 171—180
関口鯉吉・中野猿人　験潮儀に依る三陸津浪の調査報告…… 181—189
野口　篤美　津浪の到達時刻に就いて…… 191—195
本多弘吉・竹花峰夫　三陸沖強震験測結果…… 197—213
中央気象台地震掛　三陸津浪に依る被害調査…… 215—232
中央気象台予報掛　昭和8年3月3日前後の天候状態…… 233—236
国富信一・竹花峰夫　宮城県下踏査報告…… 237—239
本多弘吉・田島節夫　岩手県下踏査報告…… 240—245
鷺坂　清信　牡鹿半島沿岸踏査報告…… 246—255
石川　高見　昭和8年3月3日三陸沖強震及津浪踏査報告…… 256—269

盛岡測候所　三陸沖强震に伴ふ津浪調査報告……271—276
古館　金蔵　三陸沖强震津浪踏査報告（気仙郡）……277—282
久保田　謙　三陸沖强震津浪気仙郡沿岸踏査概況……283—285
辻　芳彦　三陸沖强震津浪踏査報告……286—292
二宮　三郎　山田町田老村方面災害地踏査報告……293—296
関　正二　三陸沖强震津浪踏査報告……297—298
金沢孫次郎　三陸津浪踏査報告……299—301
金沢孫次郎　踏査報告……302—306
盛岡測候所　三陸津浪岩手県下被害報告……307—313
石巻測候所　宮城県下津浪踏査概要報告……315—326
石巻測候所　坂元荒浜羽上方面踏査報告……327—328
青森測候所　昭和8年3月3日地震津浪調査報告（其の1）……329—334
青森測候所　昭和8年3月3日地震津浪調査報告（其の2）……335—348
北田　道男　昭和8年3月3日三陸沖强震並に津浪の北海道襟裳岬附近に於ける情況……349—354
本多弘吉・鷺坂清信・田村昌進　長週期水平動地震計……371—374
本多弘吉・鷺坂清信・竹花峰夫　深発地震の機構とP・S両地震波の勢力分布に就て……375—380
桜井　德雄　柿岡附近に於ける地鳴地震に就て……381—392
中央気象台地震掛　昭和8年9月21日能登强震調査報告……393—397
鷺坂清信　竹田建二　能登强震地域踏査報告……398—404
輪島測候所　能登强震地域踏査報告……405—408
青木成一・本多彪・早水逸雲　阿蘇火山の昭和7年10月より8年1月までの活動に就いて……409—417
淵本　一　岐阜県惠那郡福岡村の噴気に就て……418—422
淵本　一　岐阜県惠那郡中津町の地辷に就て……423—426
藤田　兼吉　岐阜県土岐郡駄知町に於ける不動川流域の隆起に就て……427—429
和歌山測候所　和歌山県那賀郡に於ける地辷調査報告……430—432
函館測候所　北海道駒ヶ岳爆発浮石流堆積層溫度観測報告……432—436
箱田顕雄・正司德俊　奈良県吉野郡十津川村宇宮原（うぐはら）の山崩報告……437—439
中央気象台羽田出張所　東京府羽田鈴木町の井戸ガス噴出に関する調査報告……437—440
高田測候所　焼山溫泉噴出の異常……440
ステレオ地図使用法……441—446
震央距離を求める公式の恒数表……447—451

第 8 巻（1934）

本多　弘吉　ScS 波の観測と地球内核の剛性に関する問題……1—10
和達清夫・益田クニモ　フキジ島南方の深発地震……11—20
和達清夫・沖　住雄　ScS 波に就て（第2報）……21—31
鷺坂清信・竹花峰夫　昭和8年3月3日三陸沖强震及び余震の発震機構に就て……32—46
本多弘吉・竹花峰夫　深発地震の発震機構と地殼内部に於ける歪力……47—52
鷺坂清信・竹花峰夫　近地地震に於ける地表面反射波に就いて（第1報）……53—74
和達清夫・益田クニモ　日本列島附近に発生せる深発地震の表（1905年より1934年4月まで）……75—96
杵島　磨　地震初動の大いさを求める簡単な方法とその応用に就て……97—107

総　目　次

杵島　　磨　　中空円壔の自由振動……109—114
本多弘吉・杵島　磨・窪田健次　　地球内核の表面に於ける地震波の反射及屈折……115—118
本多弘吉・竹花峰夫　　*PcP* 波の走時表……119—120
三浦　武亜　　図表に依る震央距離の一計算法……121—122
本多弘吉・三浦武亜　　昭和9年8月18日岐阜県下強震調査報告……123—128
淵本　一・藤田兼吉・須田滝雄　　昭和9年8月18日岐阜県下の強震に就て……129—137
田口　克敏　　紀伊附近に於ける最近の地震活動状況に就いて……139—145
大久保久寿　　長野県北安曇郡中土村の地辷り……145—146
中田　良雄　　岩手山異常報告……147—148
鷺坂清信・竹花峰夫　　近地地震に於ける *S* 波の走時表及び初期微動時表……149—161
和達清夫・益田クニモ　　続本邦噴火概表……163—168
和達清夫・益田クニモ　　火山活動と地震活動に就いて……169—174
本多　弘吉　　昭和7年5月5日大阪湾深発地震の研究（概報）……175—177
竹花　峰夫　　自大正8年至昭和9年本邦大地震概表……179—194
竹花　峰夫　　「震央距離を求める公式の恒数表」の補遺及訂正……195

第 9 巻（1935～1937）

本多　弘吉　　昭和10年4月21日新竹・台中両州烈震概説……1—2
中央気象台地震掛　　新竹・台中両州烈震の験測結果……3—9
中央気象台予報掛　　昭和10年4月20日・21日の天候状態……10—11
本多弘吉・竹花峰夫　　新竹・台中両州烈震に際し現はれた断層，亀裂，山崩等……12—14
本多弘吉・竹花峰夫　　新竹・台中両州烈震の被害……15—27
石川　高見　　新竹・台中両州烈震の余震に就て……29—36
鷺坂清信・三浦武亜　　新竹・台中両州烈震に依る地震波速度の算出と地下300粁に於ける速度の異常的変化……37—42
石川高見・森田　稔・木沢　綏　　台湾に於ける過去の地震活動概況……43—63
中央気象台地震掛　　昭和10年7月11日静岡強震験測概要……65—70
　　静岡強震に依る被害……70—71
和達清夫・本多弘吉・杵島　磨・川瀬二郎・森田　稔・川野昌美・村瀬正一　　静岡強震地域踏査報告……72—84
島村　　鼎　　静岡強震地域踏査報告……84—85
和達　清夫　　昭和11年2月21日河内大和強震概説……87—90
竹花峰夫・森田　稔　　河内大和強震験測結果……91—104
　　河内大和強震の被害調査……105—109
石川　高見　　河内大和強震と前後の地震……110—122
鷺坂　清信　　近畿地方の地震活動……123—132
川瀬　二郎　　大阪府下堅上村峠区の地辷りの経過……133—134
和達清夫・竹花峰夫　　河内大和強震地域踏査報告……135—143
棚橋　嘉市　　河内大和強震地域踏査報告……144—158
山下恭助・金家鎮汶　　河内大和強震地域踏査報告……159—162
和達　清夫　　河内大和強震地域踏査報告総括論……163—170
杵島　　磨　　昭和8年12月5日宗谷海峡東方沖の深発地震に就て……171—199

森田　稔　P'波の焦点附近に於ける観測結果，特に振幅の配布と光学類似の現象に就て（概報）…… 200—212
森田　稔　昭和8年8月30日アマゾン河上流深発地震の調査，特に焦線附近に於ける観測結果に就て…… 213—230
森田　稔　昭和6年6月30日熊野灘深発地震に現はれたる東西日本の特異性…… 231—251
竹花　峰夫　昭和10年5月31日日本海中部の深発地震調査報告…… 253—264
森田　稔　大正14年6月14日花蓮港沖地震の余震と潮汐との関係…… 265—271
篠原　茂　地震回数の日変化に就て…… 272—277
桜庭　信一　不均質彈性体の内部及び表面に起る波動に就て…… 278—282
竹田　建二　鉄筋コンクリート塔の日射に依る傾き…… 283—286
川瀬　二郎　中央気象台風力塔の傾斜の日変化に就て…… 287—294
竹花　峰夫　ウキーヘルト式地震計の倍率計算表…… 295—300

第 10 巻（1937～1940）

本多弘吉・三浦武亜　深発地震波動の定量的研究補遺…… 1— 7
本多弘吉・波佐谷慶孝　昭和11年12月1日屋久島西北西沖の深発地震（ScS 波と地球内核の剛性，第2報）…… 8— 24
森田　稔　我国に於ける遠地地震の異常震域（第1報）…… 25— 42
森田　稔　有限の大いさの球震源より出る震波の走時曲線に就て…… 43— 51
本多弘吉・伊藤　博　地震P波の射出角と地殻表層の構造…… 52— 60
本多弘吉・三浦武亜　昭和10年4月21日新竹・台中両州烈震のP波初動の定量的研究…… 61— 64
三浦　武亜　昭和11年12月27日伊豆一新島強震と其の前震及び余震の発震機構（概報）…… 65— 77
門脇興郎・高橋正吾・和田英夫　昭和11年10月26日三重県中部の深発地震調査報告…… 78— 85
波佐谷慶孝　震度と地震動の加速度…… 86— 88
喜多村一男　地震計の倍率を計算するノモグラフ…… 89— 94
竹花　峰夫　最近30年間の本邦地震有感回数の統計…… 95—146
本多　弘吉　昭和11年12月27日伊豆一新島強震地域踏査報吉…… 147—150
淵本　一　岐阜県惠那郡中津町の地辷りに就て（第2報）…… 151—164
函館測候所　昭和12年3月北海道駒ヶ岳噴火調査報告…… 165—167
正野　重方　半無限完全彈性体の表面を伝播する彈性波に就て…… 169—188
森田　稔・吉村慶丸　昭和8年2月23日チリ北部強震の調査（第1報）…… 188—217
本多弘吉・伊藤　博　P波初動週期と地震の規模に就て…… 218—227
植野　隆寿　前橋に於ける地震記象型と初期微動時間と震央距離との関係…… 228—237
川畑　幸夫　地球の扁率に基く震央距離の補正…… 238—247
中央気象台地震掛　昭和13年2月7日埼玉県本庄附近深発地震調査概報…… 248—265
中央気象台地震掛　昭和13年1月12日和歌山県田辺湾沖地震調査概報…… 266—276
中央気象台地震掛　昭和13年1月12日和歌山県田辺湾沖地震による被害，地変その他の現象 277—280
三宅恒夫・山本武夫　昭和13年1月12日和歌山県田辺湾沖強震地域踏査報告…… 281—286
久保　時夫　昭和12年11月11日群馬県小串硫黄鉱山山崩踏査報告…… 287—293
柳谷喜太郎・小沼三次・高野宇市　昭和13年5月磐梯山爆裂口下の山崩調査報告…… 294—302
竹花　峰夫・副田勝利　昭和13年5月23日福島県塩屋崎沖地震踏査報告…… 303—309
柳谷喜太郎・高木一郎　昭和13年5月23日福島県塩屋崎沖地震被害調査報告…… 310—312

総　目　次

福島測候所会津出張所　昭和13年5月23日福島県塩屋崎沖地震被害調査報告…… 313—314
本多　弘吉　地震波生成に関する故中野広博士の遺稿…… 315—326
本多弘吉・伊藤　博　鉄塔の振動の測定…… 327—360
森田　稔・門脇鼎郎・波佐谷慶孝　振動計に依る凌風丸動揺観測…… 361—384
鷺坂　清信　地震のエネルギー…… 385—448
福岡　章　昭和11年より13年までの日本附近に於ける地震エネルギーの分布…… 449—458
本間　正作　不均質彈性体の表面を伝はるラブ型表面波に就て…… 459—472
坂田　勝茂　脈動の研究（第2報）…… 473—493
坂田　勝茂　中央気象台風力塔の振動に就て…… 494—501
川畑幸夫・松岡保正　*P* 波及び *S* 波の方向による走時異常…… 502—505
森田　稔　地震計の摩擦に就て…… 505—509
波佐谷慶孝　昭和8年10月4日新潟県十日町附近の地震…… 510—524
高田玄吾・石井　弘　昭和12年8月父島の頻発地震…… 525—527
中央気象台地震掛　昭和13年11月5日福島東方沖地震及び同余震調査報告…… 528—545
鷺坂清信・伊藤　博　昭和13年11月福島県東方沖地震津波の調査…… 546—558
田島節夫・斉藤将一・植竹隆治　昭和13年11月福島県東方沖地震調査概報…… 559—562
鷺坂清信・小磯一雄　昭和13年11月5日福島県東方沖地震及津波地域踏査報告…… 563—565
鷺坂清信・波佐谷慶孝・半沢義男・山本副治　昭和14年5月1日秋田県男鹿半島地震地域踏査報告…… 566—584
中央気象台地震掛　昭和14年5月1日秋田県男鹿半島地震被害概報…… 585—586

第 11 巻（1940～1941）

本多弘吉・伊藤　博　昭和14年4月21日日本海北部の深発地震（*ScS* 波と地球内核の剛性第3報）…… 1— 27
伊藤　博　昭和12年4月30日日本海北部の深発地震…… 28— 40
森田　稔　我国に於ける遠地地震の振幅分布（遠地地震の異常震域第2報）…… 41— 53
森田　稔・波佐谷慶孝　列車に因る地面振動の測定…… 54— 67
竹花　峰夫　昭和12年12月15日～21日伊豆大島に頻発した地震群に就て…… 68— 80
川瀬二郎・鈴木宜三　昭和12年12月台東庁新港附近地震調査報告…… 81— 88
松居　秀夫　三原山産石膏に就て…… 89— 90
久保時夫・伊藤秀夫　前橋に於ける脈動と颱風との関係の一例…… 91— 98
鹿児島測候所　昭和14年10月～11月桜島噴火報告…… 99—119
本多　彪　昭和14年10月下旬の桜島火山活動調査報告…… 120—129
岡部　竜信　桜島火山活動調査報告…… 130—132
青木成一・本多　彪・早水逸雲　昭和8年2月阿蘇火山の活動調査報告…… 133—163
久保　時夫　昭和14年4月草津白根山の活動…… 164—173
松井　林平　最近の浅間山…… 174—177
植野　隆寿　蔵王火山の近況…… 178—182
本多弘吉・正務　章　本邦附近の地殻内部に於ける起震歪力に就て…… 183—216
鷺坂　清信　昭和10年4月15日飛彈高山附近の深発地震…… 217—228
伊藤　博　深発地震波動の振幅計算用の表…… 229—234
門脇　鼎郎　波浪の衝撃による脈動の生成に就て…… 235—243

験　震　時　報

木沢　綏　地球内核の表面に於ける地震波の反射及び屈折…… 244—255
副田　勝利　或る内部歪核による半無限彈性体の変形に就て…… 256—265
伊藤　博　昭和6年2月20日日本海北部の深発地震の発震機構…… 266—270
本多　弘吉　昭和6年4月21日日本海中部の深発地震に就て…… 271—276
本多弘吉・門脇鼎郎・正務　章　昭和15年7月～8月伊豆三宅島噴火調査報告…… 277—308
大島測候所　昭和15年8月19日伊豆大島三原山噴火調査報告…… 309—336
広野　卓蔵　粘彈性波に就て（第3報）（レーレー波及びラブ波に就て）…… 337—348
本間　正作　地形が表面振動に及ぼす影響（附レーレー波の特性式 Δ（τ）の値）…… 349—364
本間　正作　深発地震発震機構調査方法に就て（序報）…… 365—378
本間　正作　近地々震の P 波振幅に及ぼす表面層の影響…… 379—382
広野　卓蔵　軟地盤の荷重に依る沈下に就て…… 383—396
森田　稔　地盤沈下に関する一仮説…… 397—415
門脇　鼎郎　溫度変化に伴ふ半無限彈性体の変形…… 416—428
森田　稔　描針の弧状軌跡に就て（記象幾何学の一問題）…… 428—434
木沢　綏　昭和14年1月25日チリー大地震の調査…… 435—468
正務　章　東京有感地震の P 波初動及び地震記象型と震央位置との関係に就て…… 469—511
門脇　鼎郎　昭和14年12月16日北海道色丹島南東沖の地震…… 512—517
坂田　勝茂　脈動の研究（第3報）…… 518—529
松井林平・小宮山安次郎・土屋　浩　昭和15年10月中旬の浅間山火山活動報告…… 530—536
軽井沢観測所　昭和15年12月下旬の浅間山火山活動…… 537—538
松井林平・小宮山安次郎　昭和16年1月3～6日及び1月17～22日の浅間山火山活動…… 539—545
本多弘吉・正務　章　「本邦附近の地殼内部に於ける起震歪力に就て」訂正…… 546—548

第 12 巻（1942）

広野　卓蔵　半無限均一彈性体の表面に週期的力が働いて生ずる彈性波の伝播…… 1— 16
本間　正作　地形が表面振動に及ぼす影響（II）緩かならざる地形…… 17— 23
本間　正作　地形が表面振動に及ぼす影響（III）ラブ波から誘発されるレーレー波…… 24— 36
本間　正作　地表物質の水平不均質が表面振動に及ぼす影響…… 37— 51
本間　正作　震波の最深点を求める方法に就て…… 52— 55
本間正作・小宮友吉　本邦に於ける地震発生日周変化調査，其の一，茨城県附近…… 56— 64
高木　聖　津浪の海棚での振動…… 65— 72
本間　寧　煤紙に就て（第1報）…… 73— 74
川瀬二郎・波多正二・岡崎睦郎　脈動の研究（I）台北に於ける脈動…… 75— 90
川島　常吉　三原山噴火測量…… 91— 95
本間　正作　水平等方彈性体のレーレー波に就いて…… 97—105
本間　正作　彈性波動論の初期値問題（I）…… 106—126
副田　勝利　或る内部歪核に依る半無限彈性体の変形に就いて（補遺）…… 127—132
副田勝利・木沢　綏　昭和14年12月27日トルコの地震…… 133—143
鹿児島測候所　昭和16年4月28日桜島火山活動報告…… 144—149
鹿児島測候所　昭和16年5～6月の桜島火山活動報告…… 150—152
正務　章　昭和16年7月15日長野强震調査報告…… 153—161
鷲坂清信・本間　寧・生沼　明・伊藤　博　昭和16年11月19日日向灘地震地域踏査報告… 162—173

総　目　次

熊本測候所　昭和16年11月19日日向灘地震熊本県下の調査報告…… 174—176
岡部　竜信　昭和16年11月19日の日向灘地震実地踏査報告…… 176—180
仙台地方気象台　仙山線の地辷…… 181—183
松井　林平　昭和16年10月の浅間山火山活動報告…… 184—187
植野　隆寿　浅間山噴煙の概況…… 188—190
副田　勝利　表面に働く静的力に依る有層半無限彈性体の歪に就いて（第1報）…… 191—198
広野卓蔵・副田勝利・本間正作　振動体の共鳴現象其の他に就いて…… 199—205
本間　寧　昭和16年11月19日の日向灘地震に就て…… 206—214
本間　正作　地震計の常数検定に関する二つの問題…… 215—224
森田　稔・八木恒介・小檜山甲一　昭和17年4月～5月鳴子地方の頻発地震…… 225—230
松本　政次　地震に関する二，三の統計…… 233—238
中西　盈・永松武生　三陸沖地震に於けるP波初動と震央位置との関係について…… 239—244
今田　克，三好信之・田中遙三　昭和17年4月20日志摩半島沖深発地震…… 245—248
本間　正作　フキリツピン群島に於ける地震観測結果に就て…… 249—262

第 13 巻

1 号（1944）

副田　勝利　一般内部歪核に依る半無限彈性体の変形に就て（第1報）…… 1— 29
正務　章　異常震域現象に関する統計的調査（I）有感回数に就て……30— 42
森田　稔　振幅曲線……43— 58
鹿児島測候所　昭和17年7月～8月桜島南嶽火山活動近況報告……59— 63
森町観測所　昭和17年11月16日駒ケ嶽爆発調査報告……64— 69

2 号（1943）

高木　聖　震源…… 1— 11
高木　聖　遠地地震震央決定用大地球儀の試作……12— 17
森田　稔・八木恒介・佐藤道司　市内電車に因る地面震動測定……18— 22
福島測候所　昭和18年8月12日福島県会津地方の強震概報……23— 24
森田　稔　地震計の調整に就いて（講話）……25— 31

（第13巻3号および4号は欠号）

第 14 巻

1 号（1950）

武者　金吉　中央日本特に越前，加賀両国に於ける古来の地震活動…… 1— 11
本間　正作　ウキヘルト式地震計の常数間の関係……12— 14
本間　正作　上下動地震計の吊バネの質量の影響……15— 19
西沢義則・本間正作　地震計の自由振動の減衰について……20— 22
高木　聖・山之上昭和　余震の新統計法……23— 24
本間　正作　地震計の運動方程式……24— 31
宇田川孝吉・野口憲男・久本壮一　地震計の摩擦及び残留制振作用に関する実験……32— 35

宇田川孝吉　地震記象の験測の時間に関する誤差……35— 39
酒井　乙彦　地震計刻時用電磁石の改良……39— 43
馬場　重人　近地地震における同種反射直達波の振幅比と震央距離との関係……44— 46
本間正作・長宗留男　境界層における波動の反射に就いて……47— 55
正務　章　地殻浅層内の地震波速度及び剛性に就て……56— 70
広野　卓蔵　半無限均一彈性体表面に週期的力が働いて生ずる彈性波の伝播（補遺）……71— 75

2 号（1948）

高木　聖　昭和18年9月10日鳥取地震に伴う鉄道蛇曲現象に就いて…… 1— 2
高木　聖・野依一郎　昭和18年9月10日鳥取地震の断層…… 3
西毛品夫・高木　聖・山之上昭和　昭和18年3月4日及び5日の鳥取地震にともなう発光現象…… 4— 8
井上　宇胤　昭和19年有珠岳の火山活動に伴つた地震並に地変の調査報告…… 9— 24
井上宇胤・本間　寧　昭和19年有珠岳噴火調査報告……25— 32

3～4 号（1950）

高木　聖　震源（第2報）附地下探査への応用 …… 1— 17
長宗　留男　本邦に於ける地震発生の日週変化「其の二」南西諸島……18— 23
本間　正作　不均質媒質に於ける境界波及び横波型表面波に就て……24— 38
小檜山甲一　金華山沖地震活動の消長に関する調査……39— 42
本間　正作　深発地震の走時曲線から地表付近の地震波速度分布が求まるか……43— 48
井上　宇胤　昭和20年1月13日の三河地震について……49— 55
金沢　茂夫　三河地震の験測結果報告……56— 62
鷺坂清信・柴田武男　烈強震区域と回数……63— 64
本間　正作　海底変動の進行によつて生ずる波（1）……65— 69

第 14 巻 別 冊（1948）

昭和23年6月28日　福井地震調査概報

和達　清夫　緒言…… 1— 3
広野　卓蔵　福井地震の地震計による験測結果…… 4— 9
山口　弘次　被害統計総括…… 9— 11
岡野敏雄・中村光雄　福井地震余震総括……11— 15
田中康裕・加登幸雄・荒井秀夫　余震の現地観測……16— 19
本多　彪　福井付近の地質地形並びに地変概説……19— 21
末広重二・久本壮一・田中康裕　福井地震踏査報告（1）……22— 37
矢崎敬三・浜松音蔵　福井地震踏査報告（2）……37— 43
本多　彪・野口憲男　福井地震踏査報告（3）……44— 56
新潟管区気象台　福井地震踏査報告（4）……57— 67
田中藤蔵・西野新造・沢崎　悟　福井地震踏査報告（5）……67— 74
鷺坂清信・山中　丘　福井地震の体験記による調査……74— 79
湯村哲男・久保木忠夫・桜井謙二・今　実・大地　洸　福井地震に関する地球磁気学

的調査……79— 84
吉松隆三郎　福井地震前後に於ける地電位差について……84— 86
清水　良作　琵琶湖の傾斜について……86— 88
武者　金吉　越前地震年表……88— 89

第 15 巻

1 号（1950）

井上　宇胤　昭和24年12月26日の栃木県地震……1— 2
地震課調査係　地震計に依る験測結果……3— 13
宇都宮測候所　昭和24年12月26日栃木県地震……14— 29
本多　彪・山口弘次・黒沼新一　栃木県地震の踏査報告……30— 48
本多　彪　栃木県地震震源附近の地形，地質，地変の概報……49— 54
加登幸雄・山口弘次　栃木県地震通信調査……54— 60
武者　金吉　今市地震と鬼怒川地震帯……61— 64
本田　孝雄　栃木県地震報告……64— 65

2 号（1951）

長宗留男・柴田武男　ガリツチン地震計の初動について……1— 5
長宗留男・関　彰　松代と長野の地震記象の比較……6— 9
阿蘇山測候所　阿蘇山噴火の前兆微動……10— 17
木沢　綏　火山の微動と地盤傾斜（第1報）……18— 34
柳谷喜太郎・斉藤義文　昭和18年12月有珠地震活動の概況……35— 37
斉藤義文・菊地繁勝　昭和19年9月下旬及び昭和20年1月下旬の有珠火山調査……38— 41
斉藤義文・工藤照雄　昭和20年2月下旬の有珠火山調査報告……42— 44
福島測候所　吾妻山の噴火調査報告……45— 55
松代地震観測所　茶臼山及び姨捨駅付近の地すべりの近況報告……56— 60
波多正二・桑原　豊　新潟県三島郡出雲崎勝見地すべりの踏査報告……61— 65

3～4 号（1951）

岡野敏雄・佐藤　久・佐藤正輝　玉手山地すべり報告……1— 4
新潟管区気象台　1948年9月中旬の新潟県中頸城郡板倉村，寺野村の地変……5— 11
広野卓蔵・本間正作・岩井保彦・野依一郎・関口宇一郎　三河烈震地域踏査報告……12— 25
石垣島測候所　1947年9月27日石垣島地震について……26— 31
本多　彪　1946年3月の桜島の噴火……32— 41
鹿児島測候所　1946年3月～5月桜島噴火報告……42— 57
本多　彪　1944年～1945年の有珠山のふもとにおける地表および地下水の変化……58— 63
長谷川安利　山形県最上郡大倉村赤松地内鳥川炭鉱における山津波について……64— 65
静岡測候所　静岡県庵原郡由比町寺尾の地すべり……66
函館海洋気象台　北海道松前郡福島字日の出部落の地すべり……67
小林　三夫　福島県大笹生村地内奥羽線板谷赤岩間環金トンネル崩壊について……68— 70
八木　恒介　アイオン台風による早池峯山腹山くずれ概報……71— 72

室蘭測候所　登別におけるわき水調査……73
加藤吉男・長谷川安利　蔵王山硫黄鉱業所採鉱所における崖くずれ……74— 76
宮崎測候所　宮崎県宮崎郡木花村芳の元部落の地すべり……77— 78
函館海洋気象台　北海道函館市山背泊町の山くずれ……79— 80

第 16 巻

1 号（1952）

矢崎　敬三　廻転軸に薄い板ばねを使った水平振子の平衡について……1— 8
鷺坂　清信　地震計振子と増倍用槓杆の連結について……9— 12
本間　正作　上下動地震計における吊ばねの振動の影響……13— 23
本間　正作　鐙と光線による微小廻転角測定に於ける一注意……24— 30
坂田　勝茂　振動倍率係数 $\mathfrak{B}/V$ の表について……31— 33
高木　聖　震源（第3報）……34— 52
本間正作・長橋福次郎　日本における地震活動の移動型式について……53— 56
本間　正作　地殻の変動によるエネルギー……57— 66
本間　正作　地表面における S 波の反射の一例……67— 71
本間正作・長宗留男　地表温度変化が坑内における地殻の傾斜の観測に及ぼす影響……72— 80
本間　正作　海底変動の進行によって生ずる波（II）……81— 87
波多　正二　地震動の最大振巾と地盤との関係について……88— 94
波多　正二　新潟における脈動について……95—102

2 号（1952）

中島庸之・牧野高吉　1950年4月26日熊野川中流域地震踏査報告……1— 5
上野観測所　上野市大野木地区西の井池堤防の崩壊について……6
鷺坂清信・本間正作・矢崎敬三・長宗留男・山岸　登　1トン長周期地震計……7— 38
地震観測所　松代における地盤脈動の調査……39— 50
長宗　留男　台風によつて生起された脈動……51— 56
戸松　喜一　福井地震の震央について……57— 63
佐藤　道司　1950年6月13日宮城県涌谷町地すべり……64— 66
中村　孝・飯田光信・正務　章・塚田重造・天部　弘・諏訪　彰・野口憲男　1950年11月新潟県水原村羽山地すべり……67— 74
軽井沢測候所　1950年9月23日浅間山爆発調査報告……75— 82
勝又　護　最近の顕著な地震の表（1935年～1950年）……83— 97
広野　卓蔵　震央の厳密な求め方（紹介）……98—100

3～4 号（1952）

酒井　乙彦　50年型強震計／0.4倍強震計／ウイヘルト式上下動地震計 の 重心距離／相当振子の長さ／慣性能率 の測定報告……1— 5
長宗　留男　Ewing 型上下動地震計の補助重錘について……6— 8
矢崎　敬三　一上下動地震計の試作……9— 13
広野卓蔵・岩井保彦　深発地震の規模（マグニチュード）を決める一方法……14— 22

本間　正作　海底変動の進行によつて生ずる波（III）……23— 63
吉村寿一・大枝良介・新垣隆夫・堤　良造　脈動と波浪（第1報）……64— 76
市川　政治　海洋底を伝播する表面波について……77— 84
正務　章　地辷りに及ぼす雨水の影響について……85— 94
園部　美尚　岐阜の地震計にあらわれる微動について……95— 98
大野讓・南喜一郎　阿寒鳴動調査報告……99—108

第 17 巻

1～2 号（1953）

昭和27年3月　十勝沖地震調査報告

井上　宇胤　概観……1— 3
地震課　十勝沖地震の気象官署における観測結果……3— 12
地震課　十勝沖地震余震総括……12— 18
地震課　被害総括……19— 23
　　踏査報告（北海道の部）……24— 82
　　踏査報告（三陸地方の部）……82—106
地震課　津波……107—111
地震課　津波予報について……112—123
武者　金吉　北海道の地震活動……123—129
地震課　北海道附近の最近の地震活動……130—135

3 号（1953）

高木　聖　震源（第4報）……1— 30
高木　聖　震源（第5報）……31— 51
高木　聖　震源（第6報）……53— 62
武石　武　色々の場合における阿蘇山の微動と噴火……63— 69
関　彰　松代で記象される地震とされない地震の比較……71— 82
正務　章・小池富治　被圧天然ガス附随水の温度による地下増温率……83— 84
大野　讓・久保明弘・渡辺貫一・橘　俊一　樽前山噴火調査報告……85— 90
富山測候所　富山県加積村の地すべり調査報告……91— 93
地震課調査係　大聖寺沖地震……95—102
山下　勇　大聖寺沖地震踏査報告（1）……103—104
中島　信之　大聖寺沖地震踏査報告（2）……105
塚本　章・中山正喜　大聖寺沖地震踏査報告（3）……107—108

4 号（1953）

矢崎　敬三　ウィーヘルト地震計について……1— 22
高木　聖　震源（第8報）……23— 36
高木　聖　震源（第9報）……37— 41
宇佐美竜夫　*SH* 波による崖の振動の一例……43— 47
仙台管区気象台観測課　十和田湖附近の局発地震について……49— 53

木沢　綏・大野　讓・井出信一　昭和27年7月阿寒火山地帯の調査……55— 59
倶知安測候所　ニセコ連峰附近温泉観測報告（第1報）……60
敦賀測候所　福井県青葉山麓の山くずれ……61— 65
諏訪　彰・竹山一郎　1952年明神礁噴火の活動経過……67— 70
和達清夫・諏訪　彰　1952年明神礁噴火の空中観察……71— 77
三浦　三郎　1952年明神礁噴火の竹生丸による観察……79— 82
地震課調査係・櫃原測候所　昭和27年7月18日吉野地震概報……83— 96

第 18 巻（1953～1954）

カムチャッカ地震調査報告……1— 48
井上　宇胤　概観……5— 6
地　震　課　気象官署における観測結果……6— 12
調査報告……13— 35
地　震　課　津波……36— 39
札幌管区気象台・仙台管区気象台・地震課　津波予報について……40— 43
地　震　課　米国における津波の状況……43— 45
地　震　課　カムチャッカ地震津波観測一覧表……45— 48
高木　聖　震源（第10報）……49— 65
宇津　徳治　余震のエネルギーと頻度について……66— 84
中川　孝一　佐渡地方における津波の伝播と波高……85— 88
星　為蔵　1953年5月明神礁の志賀丸による観察……89— 90
諏訪　彰　三宅島雄山中央火口附近の地形と噴気……91— 93
星野常雄・渡辺昭次　笠掛山山くずれ踏査報告……94— 98
釧路測候所　北興炭坑の山くずれ調査報告……99—100
高木　聖　震源（第11報）……101—104
高木　聖　震源（第12報）……105—119
渡辺　偉夫　極浅発地震の Magnitude を定める一方法とその利用について……120—128
市川　政治　Hodgson の方法について……129—132
樋口長太郎　大森式地震計の改良（第1報）……133—140
勝又　護　1940年7月10日穆稜附近の深発地震についての二，三のこと……141—150
福井測候所　福井県山中山の山くずれ……151—152
広野　卓蔵　故本間正作氏の研究について……153—160
岡野　敏雄　地震の規模判定図の改良……161—164
宇津　徳治　余震のエネルギーと頻度について（続報）……165—175
樋口長大郎・小野崎誠一　動電型制振器について……176—182
田中　藤蔵　大森式地震計の改造……183—186

第 19 巻（1954～1955）

高木　聖　震源（第13報）……1— 7
塚田　秀作　台風による大島の脈動について……8— 14
本多　彪・諏訪　彰・竹山一郎・多賀　将　東京都鳥島火山の地形と地質……15— 23
川瀬二郎・竹山一郎・野口憲男　箱根山のひん発地震について……24— 30
福島測候所　吾妻山の噴煙について……31— 32

総　目　次

飯沼竜門・相沢義久　1953年3月31日長野県北安曇郡北小谷村李平の地すべり踏査報告……33— 34
宇佐美竜夫　平面波の反射屈折に伴う Energy の移動 ……35— 41
中央気象台地震課　房総沖地震調査報告……42— 70
井上　宇胤　概観……42— 43
地震課調査係　房総沖地震の気象官署における観測結果……43— 50
地震課調査係・験震係　余震……50— 56
地震にともなつた諸現象……56— 61
札幌管区気象台・仙台管区気象台・中央気象台　津波予報について……61— 64
高木　聖　震源（第14報）……71— 76
勝又　護　地震動振幅の地盤係数（その一）……77— 80
市川　政治　強震計上下動成分について……81— 87
諏訪　彰・竹山一郎・加登幸雄　1950～51年三原山溶岩の粘性と火口原における地電位差の分布……89— 92
鷺坂清信・山岸　登　近地地震における表面波の観測について……93— 98
浜松　音蔵　Queen Charlotte 諸島地震の観測について（1）……99—107
函館海洋気象台　北海道松前郡日の出部落の地すべり調査報告…… 109—114

第 20 巻（1955～1956）

矢崎　敬三　地震計に用いる Co-elinvar つる巻ばねについて…… 1— 6
長宗留男・泉　末雄　松代における地殻潮汐の観測（1）…… 7— 14
鷺坂清信・山岸　登　近地地震における表面波の観測について（つづき）……15— 20
鷺坂清信・山岸　登　地震の最大動の観測について……21— 26
坂田　勝茂　振動倍率係数 $\mathfrak{B}/V$ の表について（補遺）……27— 32
市川　政治　近地地震の P 波走時（和達・鷺坂・益田）用 $\frac{\partial T}{\partial \Delta}$, $\frac{\partial T}{\partial h}$ の表……33— 37
諏訪　彰・田中康裕　1953年～54年の大島三原山の火山活動に関連する火口内の溶岩温度の変動……39— 47
矢崎敬三・竹山一郎・田中康裕　複水平振子傾斜計の試作について……49— 58
勝又　護　日本付近の地震の垂直分布……59— 63
長宗留男・泉　末雄　松代における地殻潮汐の観測（続）……65— 72
宇佐美竜夫・小川辰郎　各成分間における初動時刻の差について……63— 80
小河原正己　東京における次の有感地震の確率……81— 92
はせばてつや　わが国における地震波初動の走時偏差……93—100
市川　政治　P 波初動と観測網…… 101—108
樋口長太郎・小野崎誠一　ウィーヘルト水平動地震計（200kg）の自由振動の異常の原因について（残留制振度が意外に大きいこと）…… 109—116
野口　憲男　中央気象台型簡易地磁気偏角計調査結果について（第1報）…… 117—122
荒川　義則　台風による脈動について…… 123—127
藤本　文彦　深発地震の記象による土地の振動特性の研究…… 129—140
宇津　徳治　松代の近地地震記象中の顕著な相について（その1）…… 141—144
市川　政治　P 波初動分布について…… 145—155
佐藤留太郎・大野栄寿・佐藤一大・諏訪　彰　1954年春の磐梯山の山くずれ…… 157—164
米子測候所　鳥取県西部地震踏査報告…… 165—169

「験震時報」投稿上の注意事項

(1) 報文は原稿用紙に横がきではっきりと書き，当用漢字新かなづかいを用いる．句読点．，は1字分あけ，数字はアラビア数字とする．記号 a と α と d, C と c, e と l と ρ, 0 と o と o, r と γ, S と s, W と w, Z と z と2, などはまぎらわしいから特にはっきり書く．

(2) 論文の長さは当分のあいだ付図を含めて刷上がり8ページ以内，ただし，付図は刷上がり合計3ページ以内とする．

(3) 報文が論文の場合，その初めに欧文の題目および内容要約をつけ，図，写真および表の説明は欧文とする．報文が報告の場合は欧文の題目をつける．

(4) 付図は濃いすみで，ていねいに書き，むだな余白のないようにする．図中の文字は縮めても，小さくなりすぎないよう大きめに書く．注や説明はわく外に活字にくめるようにする．

(5) 写真は鮮明なもので，変色やよごれのないものにかぎる．

(6) 欧文題目，内容要約および原稿中の欧文は活字体でわかりやすくかく．欧文題目，内容要約はできうればタイプライターで打つ．

昭和31年3月20日　印刷
昭和31年3月26日　発行

編集兼発行者　中央気象台
東京都千代田区大手町一ノ七

印刷者　原田富次

印刷所　内外印刷株式会社
東京都中央区八丁堀二ノ四